

トランプ平和ポーズの全面破たん

鈴木頌

2025 年 06 月 16 日

トランプはかつて北朝鮮で裏切ったように、ウクライナで、中東で世界を裏切った。

裏切ったというのは、「力不足でできなかった」というのとはわけが違う。好戦主義者に膝を屈し、許しを請い、命じられるままにウソをつき続けたということだ。「だまされたお前たちが悪い」と開き直ったことだ。

好戦主義者の手口は瓜二つだ。第一に核兵器に対しても恐れを抱かない。むしろ核兵器を格好の標的として狙い、それにより核兵器の応酬が起こることを期待しているかのようだ。第二に最新型ドローンの大量投入だ。これはイエメン戦争から始まり急速に広がったチープでアクセスが容易な戦争イノベーションだ。第三に、とはいえドローンをただ飛ばせばいいのではない。飛行距離を考えればできるだけ至近の場所に秘密のアジトとそこへのルートを確保したうえで一気に叩く、サボタージュ作戦のイノベーションだ。

それがほぼ同時に、ウクライナとイランという二つの戦争に適用されている。それは二つの作戦の企画者が同じだということを意味する。それは CIA（コルビー国防次官の祖父の出身の地）の仕事ということになろう。今日の世界で常識的に考えて、それ以外には考えられない。**毒薬の秘法は CIA-モサド-MI6 のトライアングルに共有されている。**そして毒薬を大統領に飲ませる力は CIA にしかないだろう。

それが、トランプが裏切った理由だ。これでトランプ劇場は終わりだ。

我々は、トランプの裏切りへの怒りとともに、支配層の中に深刻な分裂が広が

っていることも知った。それを、裏切りのシナリオの中に確認した。**トランプ政権の提起したいくつかのプランは、そこに支配構造のひび割れと断層が存在することを示している。**もし好戦主義者が世界で戦争を続け拡大しても、泥舟がいずれ沈むように、その先に未来はない。未来がないからもがき、分裂するのだ。

いま、あらためて、米国大統領をねじ伏せた好戦主義者＝影の帝国の巨大さと極悪さに、身の引き締まる思いだ。我々はいまこそ「戦争反対、平和を守れ」（こんな漫画みたいなスローガンが現実世界の切実な合言葉になろうとは！）の旗を高く掲げ、抑止力や集団的自衛権ではなく、「非戦・非核・非同盟」の国際原則を確認し、すべての戦争の即時停止をもとめるべきだ。

そして国連を頂点とする地域・分野ごとの協議を、多国間の平等と民主主義の原則に基づいて活性化すべきだ。（SS）